

令和4年度 第61回 岐阜県学校保健研究大会を終えて

揖斐郡学校保健会

11月27日(日)、揖斐川町地域交流センター「はなもも」において、第61回岐阜県学校保健研究大会を開催しました。

「ポストコロナ時代を生き抜く力をもった児童生徒の育成～郡三師会と学校の連携による健康づくりを通して～」という大会テーマのもと、研究発表と記念講演を通して、「郡三師会と学校との連携」、「揖斐川町、大野町、池田町の連携」を大切に、揖斐郡が一体となった学校保健の取組を発表する大会としました。

開会式では、岐阜県学校保健会会長の河合直樹様、岐阜県教育委員会教育次長の小野悟様、本大会実行委員長の野田宜輝様よりご挨拶をいただきました。

岐阜県学校保健会表彰では、39名(団体含む)の方が表彰されました。また、学校環境衛生活動優良校表彰では、35の幼児園、小・中・高等学校が表彰されました。

研究発表では、はじめに揖斐郡の学校保健の取組の概要を説明した後、研究発表Ⅰ(郡保健主事部会)、研究発表Ⅱ(郡養護教諭部会)、研究発表Ⅲ(郡学校保健会)の順で研究発表を行いました。

研究発表Ⅰでは、「自らの健康を守るとともに、身の周りの人々の健康にも意識をもったり、働きかけたりすることができる児童・生徒の育成」を目指して、保健主事の役割を明確にして実践を進めるとともに、三師会との積極的な連携を図ることで、学校における効果的な保健指導の在り方や道筋を明らかにした実践を発表しました。

研究発表Ⅱでは、「生涯にわたり主体的に健康な生活をつくりだす子の育成」を目指し、養護教諭の専門性を生かし、高い危機管理意識をもって組織的に保健活動を推進した取組について、「学んだことを活用した主体的な健康づくりを目指した集団指導」、「自分自身の健康問題に気付き、主体的な解決を目指した個別指導」、「身近な人々に発信し、健康の保

持増進への寄与を目指した児童生徒の組織活動」の三側面から発表しました。

研究発表Ⅲでは、「郡三師会と学校の連携を図る」ために郡学校保健会が行ったマネジメントや支援につ

いて、揖斐郡の学校保健全体構想の作成、郡三師会と養護教諭との交流会や郡学校保健研修総会の講演、各校で実施されている三師会と学校が連携した実践のデータベース化や優れた実践の郡学校保健会だよりや郡学校保健会ホームページを通しての紹介を発表しました。

記念講演では、こころとそだちのクリニック あすなろ院長・各務原病院精神科医師(非常勤)の加藤智美先生に「コロナ禍におけるこどもたち～小児発達外来の現場から～」の演題で講演をしていただきました。コロナ禍において、小児発達外来で出会ったこどもたちや保護者との対話から気づいたことや日本の子どもの幸福度、コロナ禍におけるこどもたちの状況や心の健康、こどもたちの心を守るために私たちができることなどについてのお話を通して、こどもたちの話を聞き、居場所があること伝えたり、周りの大人がつながりを作ることが、子どもたちの未来を守るために必要であることを学びました。またそのためのキーワードが「つながりと居場所」であることも教えていただきました。

このように本大会が、「子供たちが自分の心身を意識し、守り、生き抜く力をつけていくための大人の役割を考えていく機会になり、各地での学校と三師会の関わり方のヒント」になったと確信しております。

最後になりましたが、今後の岐阜県学校保健会の更なる発展を祈念いたしまして、第61回岐阜県学校保健研究大会の報告と致します。

